

取組時の課題と目的

1 取組時の課題

- (1) 単元に応じた指導内容や手立てが十分でないために、共通理解された指導が定着されていない。
- (2) 体育授業において、積極的に言葉を交わし合い、課題を追究する意識が低い。

2 取組の目的

- (1) 教員の体育授業の指導力の向上と意欲・関心を高める。
- (2) 児童に体育授業での『できる』を実感させ、体力・運動技能の向上と思考力を高める。

取組の内容

1 教員の指導力の向上

- (1) 教員実技研修で授業で取り組む運動を経験し、運動のもつ楽しさや難しさ、危険性等について考える機会を設けた。また、児童に指示するコツや補助の行い方など共通理解を図った。
- (2) 体育専科教員が授業毎に気づいた点をアドバイスし、担任が様々な指導方法を取り入れた授業を行えるようにした。

2 体育授業の充実

(1) 単元計画の作成

- ① 毎時間の導入段階で、体づくり・体ほぐし運動を取り入れた「藪南運動」を担任が実施できるように研修を行った。
- ② 体育専科教員が中心となり系統の分析を行い、各単元・1時間毎のめあてが設定された授業を行えるようにした。
- ③ 児童が授業におけるめあてに基づいた取組を振り返る時間を確保した。
- ④ 児童が気づきを共有し合えるように、児童一人一人が考え、教え合い・話し合う時間を設定した。

(2) 場の設定の工夫

- ① 児童一人ひとりの能力に応じた場や活動を選択できるようにした。
- ② ICTを活用することで児童の動きを視覚化し、互いの動きのアドバイス等、交流を行う機会を設けた。
- ③ 掲示物を活用し、児童が授業の流れや動きのコツを視覚的にとらえることができるようにした。

3 体育活動への取組

- (1) 児童会や体育委員会を中心として、わくわくタイムや朝の運動等の企画・運営・実施ができるように指導した。
- (2) 外部講師として、スバル陸上競技部を招き全校児童を対象とした陸上教室や教員研修会を企画した。
- (3) 地域への啓発として、学校Webページへの掲載や保護者向けの体力向上通信「藪南、前へ」を発行した。また、親子スポーツイベントを開催し、家族で運動を楽しめるよう奨励した。

取組の成果

1 教員の指導力の向上

- (1) 教員実技研修会で、実際に運動を経験したことによって、運動のもつ楽しさや課題に触れることができ、児童へのアドバイス等、指導の幅が広がった。
- (2) 担任が、児童の考えを引き出し、課題解決の方法を共有させることができるようになった。
- (3) 単元計画が作成されたことにより、毎時間の指導内容が明確となった。そのため、児童はめあてをもって意欲的に授業に取り組むことができるようになった。

2 体育授業の充実

- (1) 藪南運動等で集団行動を重点的に行ったことで、児童は規律ある態度で授業に臨めた。
- (2) ICTを活用し、自分の動きが視覚化されたため新たな気づきに繋がり、児童同士でアドバイスをするなど学び合う姿が見られた。
- (3) 掲示物を活用したことで、効率的な動き方を児童が視覚的にとらえることができ、準備や説明の時間が短縮できた。そのため、運動量を増やすことができた。

3 体育活動への取組

- (1) わくわくタイムや朝の運動等で児童に活躍する機会を増やしたことによって運動へ主体的に取り組む児童が増えた。
- (2) スバル陸上教室を実施したことで、児童の運動への意欲が高まり多くの児童が持久走練習に進んで取り組んでいた。
- (3) 体力向上通信「藪南、前へ」を発行や学校Webページに体力向上の掲載を行うことで地域の人々の運動への関心が高まってきた。特に、「縄跳び」の動画等で家庭でできる運動を紹介したことは、効果的であった。

今後の課題

1 教員の指導力の向上

- (1) 体育授業を担当する教職員の一人一人が、自信をもって指導ができるよう作成した単元計画を有効に活用することや検討、検証を加えながら、教員の指導力向上に資するものへと改善、充実を図る。

2 体育授業の充実

- (1) 場の設定や効果的にICTを活用するなど、様々な手立てを授業に取り入れていく。
- (2) 児童が互いの動きをアドバイスできるようなワークシートやポイントカードを作成する。

3 体育活動への取組

- (1) 担任が関連教科の指導を通して、児童の運動に対する興味関心を高める指導を行う。
- (2) 体育的行事等でも、児童が主体的に取り組める機会を増やし、児童主体の活動を展開していく。
- (3) 体育活動の充実を教員全体で共通理解を図り、集団行動での規律や約束を徹底し、他教科の学習規律とも関係した指導を行っていく。
- (4) 様々なスポーツ領域の運動に関する外部講師を招き、そのスポーツを体験し、専門性に触れ、技術の獲得を促すとともに意欲の向上を図る。また、学校Webページの充実も図る。

